

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	野のはな空のとりに保育園
法人名	学校法人アルウィン学園
法人所在地	杉並区松庵1-9-33

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

子どもが自ら身体を動かしたくなる環境とは？

<テーマの設定理由>

子どもの興味や関心に合わせて、全身を使ういろいろなあそびを引き出していくために、子ども自身がやってみたくすることが大事だと考え、このテーマを設定しました。

## 2. 活動スケジュール

2025年5月～2026年3月、週に3回程度。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

凹凸のあるマット、スロープと階段のマット、斜めの階段マット、ジャンピングマット（トランポリン）、感触マット（1本橋・六角形）、コルク積木、ダンボール、フェイスタオル  
子どもの身体の動きや興味に合わせて、活動内容を検討。同時に複数名があそべるようスペースと数を考慮して設定。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ①ジャンピングマット  
保育室にジャンピングマットを設定。上り下りやジャンプすることを体験し、たのしむ。
- ②感触マット（一本橋・六角形）  
形の異なる凹凸がついたマットを保育室に設定。足裏で肌触りを感じながら、マットの上を渡ってあそぶ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①2歳児保育室にジャンピングマットを用意すると、子どもたちは不思議そうな表情で見ている。保育者がマットの上に立ち、飛び跳ねると「トランポリンだ」「やりたい」とそれぞれマットに乗る。嬉しそうに身体を上下させたり、ジャンプできる子は跳んであそぶ。友だちと向かい合うと同じリズムで跳ぼうとしたり、身体の動きを真似ていた。10回跳んだら交代ということになり、みんなで「いーち、にーい・・・」と数え、跳んでいる子は声に合わせて笑顔でジャンプしていた。
- ②一本橋のマットを歩くと、腕を広げてバランスを取りながら一歩ずつ進んでいた。感触を確かめるようにゆっくり足を出したり、凸凹の部分は立ち止まるなど、足元を見ながら慎重に進む。バランスを崩してよろけてしまう子がいると、他児が「手伝ってあげるよ」と手を繋いで、横でサポートする。渡り終わると「上手だね」「もう一回やる?」「うん」と子ども同士でやりとりし、くり返してあそぶ。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- 子どもたちはくり返し体験する中で、意欲がわき、できたことが自信となっていった。難しさを感じながらも自分で考え、挑戦しようとする気持ちが育っていった。記録をとりながら話し合っていくと、保育者が子どもたちの姿を予想し、どんなことを子どもたちはしたいのか、どこが課題か（どんな動きを体験してほしいか）などを考えて環境を整えることが大事だとわかった。子どもにとって簡単すぎず、難しすぎず、ちょっとがんばればできる設定が子どもたちの意欲を引き出していた。また、あそびの設定がしてあればよい訳ではなく、保育者がたのしそうに一緒に身体を動かしてモデルとなったり、子どもの姿を想像しながらどれだけのしいあそびを考えられるか、ということも大事であると再確認できた。